

道徳

➔ 6年生 | 「夢の実現」

やなせたかしさんの人生に学ぶ

1. はじめに

やなせたかしさんは、よく知られた「アンパンマン」の作者である。やなせさんの「遅咲き」の人生に焦点を当て、「夢の実現」に必要なことは何かを、子どもたちにつかませるのが授業の目標である。

2. 遅咲きの人生

まずは「手のひらを太陽に」の歌詞を電子黒板に提示する。すると、子どもたちは自然と歌いだす。この歌を作詞したのは、やなせたかしさんである。やなせさんの夢は「漫画家になること」だった。

「アンパンマン」は、やなせさんが
何歳のときにヒットしたか？

次に、上記のことを子どもたちに予想させた。答えを画面に提示しながら、やなせさんの人生を振り返った。

34歳でようやく
34歳でようやく
漫画家になる

(授業で提示した資料。黒塗りの部分は隠して提示した。)

「アンパンマン」の人気が出て、売れっ子になったときにはすでに50代後半になっていた。しかもテレビ放送がスタートしたのは、なんと69歳のときである。子どもたちは「こんなに遅咲きの人生もあるのだ」という事実を知る。

3. 夢は叶う

アンパンマンが大ヒットするまでには、どのような過程があったのだろうか。

大人からは初め、次のように酷評された。

出版社の人 「こんな本はこれ1冊にして」
幼稚園の先生 「顔を食べさせるなんて残酷だ」
評論家 「こんなくだらない絵本は図書館に置くべきではない」

しかし、子どもたちの間で徐々に人気が出はじめ大ヒット。アニメ化につながった。

夢の実現に必要なことは何だろうか。やなせさんはこう語る。

1つは「虚仮の一念」。

とにかくやり続けること。そうすればいつかは花が咲く。どんなにうまくいかなくても、諦めずにやり続けたからこそ成功したのである。

もう1つは「好きなもの以外の武器を持つ」ということ。やりたいことだけをやっていただけではダメ。何かをやりたいと思ったら、ほかのこともできないとダメ。一番よいのは学校の勉強。いろいろなことを幅広く吸収できる。

その後、自分の将来の夢と照らし合わせて「これから、自分はどうしていきたいか」を考えさせた。「失敗しても諦めないで自分がやりたいことをずっと続けたい。」「好きなことばかりをするのではなく違うことにもチャレンジしたい。」といった意見が子どもたちから出た。やなせさんの人生を紹介したことで「夢は諦めなければ叶う」ことを理解させることができた。

【主要参考文献】
『わたしが正義について語るなら』 やなせたかし：著 ポプラ社
『アンパンマンの遺書』 やなせたかし：著 岩波書店